

Accuphase

# STEREO POWER AMPLIFIER

ステレオ・パワーアンプ

## P-4100

取扱説明書



ご使用前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きかえにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

## 3年間の品質保証と保証書

当社製品の品質保証は3年間です。付属の「お客様カード」に必要事項を記入の上、お早めに(なるべく10日以内に)ご返送ください。「お客様カード」と引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

※「お客様カード」のご返送や「品質保証書」の発行について、詳しくは17ページをご参照ください。

※「品質保証書」はサービスサポート時に必要となりますので大切に保管をしてください。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、お求めの当社製品取扱店または当社品質保証部へ、直ちにご連絡ください。

尚、品質保証は日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

## ⚠マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。

### ⚠警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。

### ⚠注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

## 付属品を確認します

- 取扱説明書(本書) ..... 1冊
- お客様カード ..... 1枚
- 安全上のご注意 ..... 1冊
- 目隠しシール ..... 1枚
- お客様情報の取扱いについて ..... 1枚
- AC電源コード(2m) ..... 1本

## 目 次

付属品を確認します .....	表紙裏頁
<b>1. ⚠ 警告 安全上必ずお守りください</b> .....	<b>2</b>
⚠ 注意、使用上の注意 .....	3
<b>2. 各部の名前</b> .....	<b>4</b>
フロントパネル、リアパネル .....	4
<b>3. 接続図</b> .....	<b>5</b>
<b>4. 各部の動作説明</b> .....	<b>6, 7</b>
<b>5. モード切替スイッチの活用</b> .....	<b>8</b>
NORMAL、BRIDGE、DUAL MONO .....	8
<b>6. ブリッジ接続</b> .....	<b>9~11</b>
ブリッジ接続とは .....	9
ブリッジ接続に切り替えた時 .....	9
ブリッジ接続するには .....	10
ブリッジ接続図 .....	11
<b>7. バイアンプ方式</b> .....	<b>12</b>
<b>8. 保証特性</b> .....	<b>13</b>
<b>9. 特性グラフ</b> .....	<b>14</b>
<b>10. ブロック・ダイヤグラム</b> .....	<b>15</b>
<b>11. 故障かな?と思われるときは</b> .....	<b>16</b>
<b>12. アフターサービスについて</b> .....	<b>17</b>

# 1. 警告 安全上必ずお守りください

ご使用前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

■ **電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。**

- AC100V (50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

■ **電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。**

- 付属の電源コード以外は絶対に使用しないでください。
- 付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全です。接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

■ **密閉されたラック等には絶対に設置しない。通風が悪いと機器の温度が上り、火災や故障の原因となります。**

■ **放熱のため製品の周辺は他の機器や壁等から充分間隔(15cm以上)をとる。**

■ **機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)を置かない。**

■ **火災又は感電を防止するために、雨が降る場所又は湿気のある場所では絶対使用しない。**

■ **トップ・プレートや底板は絶対にはずさない。内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。**

■ **脚の交換は危険ですから行わない。取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因になります。**

■ **次の場合には本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。安全を確認後、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。**

- 内部に水や薬品などの液体がかかった場合。
- 内部に異物(燃えやすい物やヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。
- 故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
- 落としたり、破損した場合。

※電源コードをコンセントから抜かないと、電源スイッチをOFFにただけでは、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。

※万一の場合、電源コードをコンセントから容易に外せるように、コードの引き回しやコンセント周りの環境を整えてください。

## ⚠ 注意

### ■設置場所について。

必ず水平な場所に設置してください。次のような場所は、故障や事故の原因となります。

- 通風が悪く、湿気やほこりの多い場所
- 直射日光の当たる所、極端に寒い所
- 暖房器具の近くなど温度の高い所
- 振動や傾斜のある不安定な場所

### ■他の機器と直接重ねて使用しない。

本機の放熱は、左右のヒートシンク及び上下の通気孔による自然対流の空冷方式で行います。ヒートシンクや通気孔をふさいだり、P-4100同士または他の機器と直接重ねて使用しないでください。

### ■スピーカーコード、入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切る。

- RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬(ー)側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となることがあります。
- スピーカーコードの接続が不完全で、コードが外れて本体シャーシや入・出力端子に触れると、アンプの故障やショック・ノイズの原因となることがあります。

### ■AC電源コードの接続。

本機は消費電力が大きいため、容量に十分余裕がある室内のコンセントから直接電源を取るようにしてください。

### ■電源スイッチはプリアンプなど入力側のボリュームを下げてから切る。

### ■長期間使用しないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜く。

### ■電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

### ■入・出力端子などに接点保護剤などを絶対に使用しない。樹脂部が経年変化で破損して感電や故障の原因となることがあります。

## 使用上の注意

### ■本機は、次の状況の場合にプロテクション回路が作動し、出力を遮断します。

#### ①熱に対する保護動作

設置・動作状況などにより、ヒートシンクが異常な高温になると、温度センサーによりプロテクション回路が働き、出力を遮断します。

この場合、一旦電源スイッチを切り、数時間後ヒートシンクの温度が正常になってから、電源スイッチを入れれば復帰します。ただし、機器の周辺を広くとり通風を良くする等の処置をしてください。

万一、さらに温度が上昇して、トランス内部が異常高温になると、電源トランスに内蔵されている温度ヒューズが切断され、安全を確保します。切断した温度ヒューズは復帰しませんので、当社品質保証部までご連絡ください。

#### ②異常入力信号に対する保護動作

DC成分を多く含んだ異常信号が入力された場合、プロテクション回路が働き、出力を遮断します。

この場合、一旦電源スイッチを切り、異常信号が入力しない処置をしてから電源スイッチを入れれば復帰します。

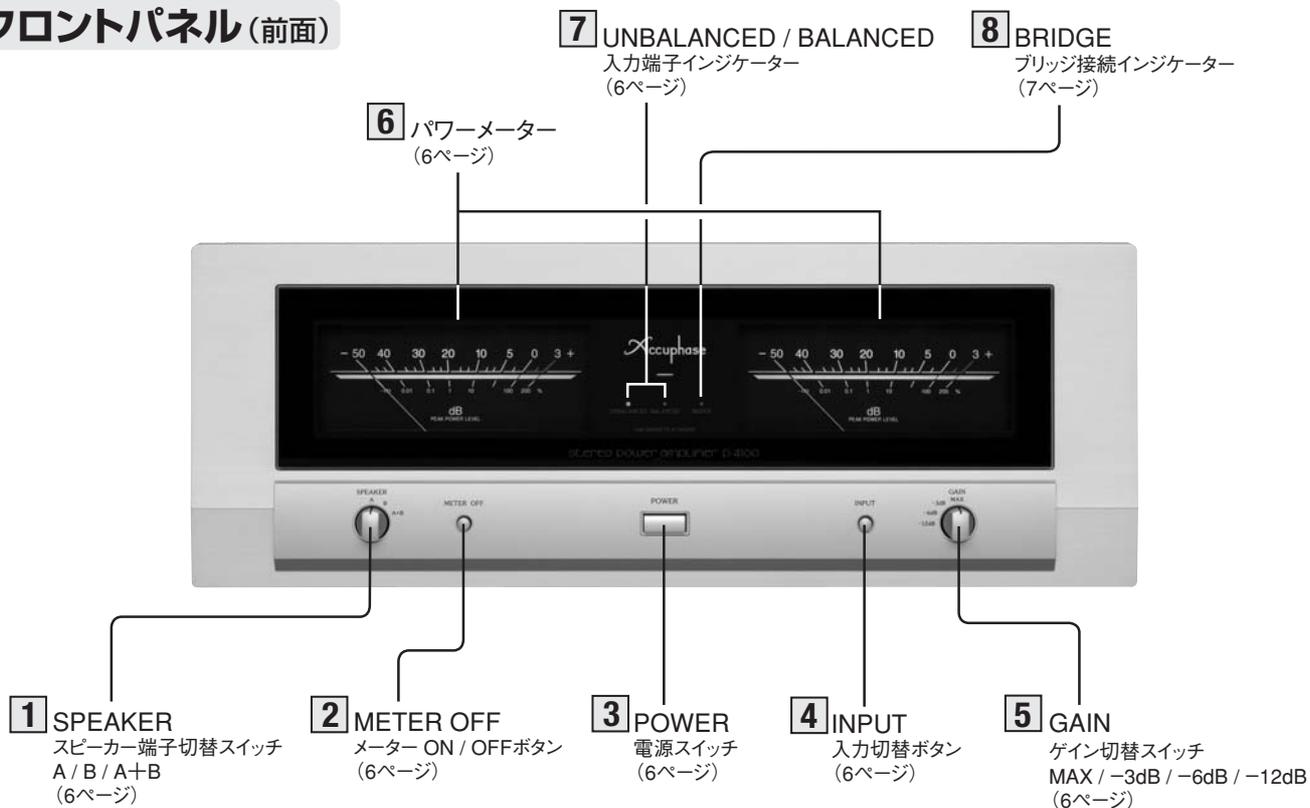
## お手入れ

- お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー、油、ワックス等を使用してお手入れは、表面を変色させたり、傷つけたりしますので使わないでください。
- フロントパネル面のガラス側面はコーティングされており、白い布で拭くと黒っぽく着色することがありますのでご注意ください。

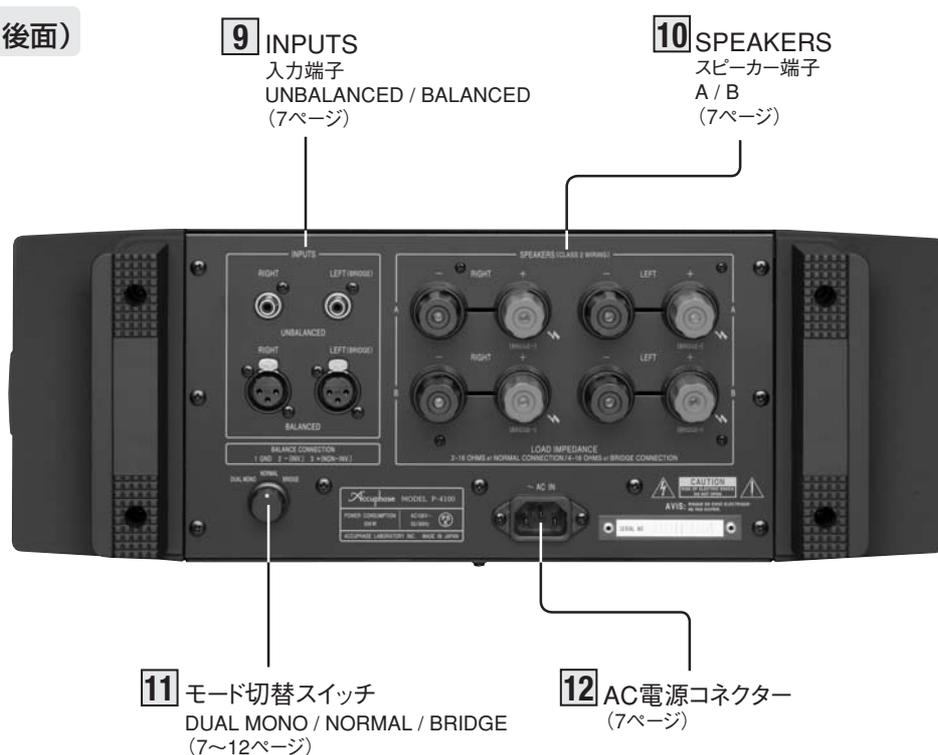
## 2. 各部の名前

詳しい説明は、各項目の( )内のページを参照してください。

### フロントパネル(前面)



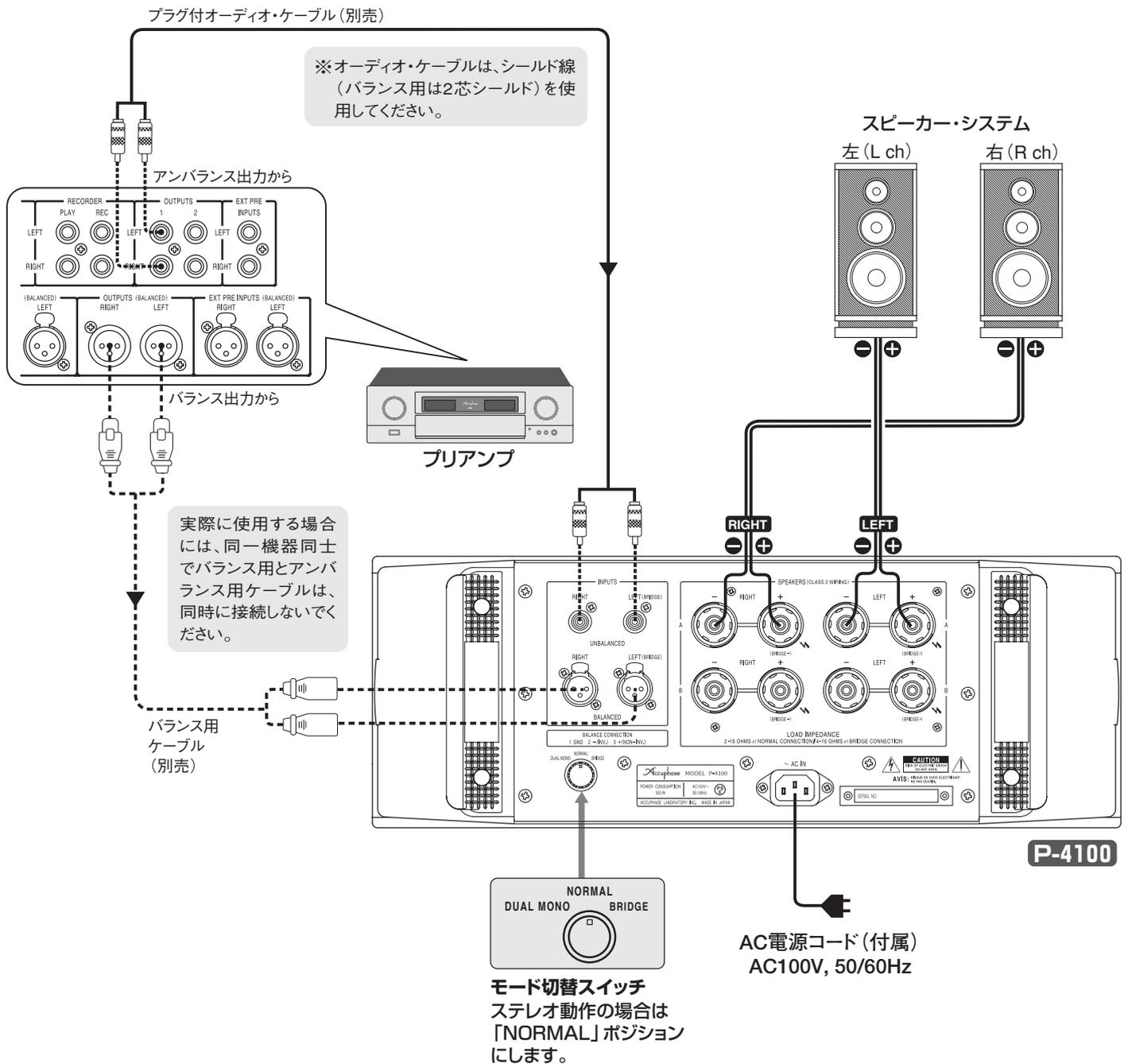
### リアパネル(後面)



### 3. 接続図

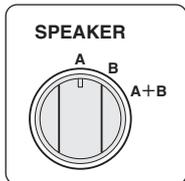
**⚠ 注意** : 接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

- 注意** : ●入・出力の接続は、オーディオ・ケーブルを使用しLEFT(左)、RIGHT(右)を正しくつないでください。  
●同一機器同士でバランス用とアンバランス用の両ケーブルを同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。



## 4. 各部の動作説明

### 1 SPEAKER — スピーカー端子切替スイッチ



スピーカー端子A、Bを装備し、2系統のスピーカーを接続することができ、それらを選択するスイッチです。

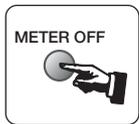
#### A、B

スピーカー端子A、Bどちらか1系統を選択します。

#### A+B

2系統のスピーカーを同時に鳴らすことができます。この場合は、インピーダンス4Ω以上のスピーカーを接続してください。A/B端子それぞれから、スピーカーの低音用/中・高音用端子と接続するバイ・ワイヤリングの場合にも、このポジションにします。

### 2 METER OFF — メーターON/OFFボタン



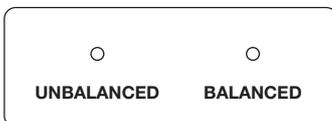
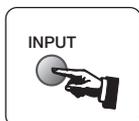
押してOFF(●) :メーターの作動停止、照明ランプ消灯  
再び押してON(■) :メーター作動、照明ランプ点灯

### 3 POWER — 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで約5秒間は、ミュート回路が作動しますので出力はありません。電源スイッチOFF直後(10秒以内)に再びONしない。

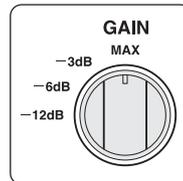
### 4 INPUT — 入力切替ボタン

入力信号を接続した、**9**入力端子を切り替えるためのボタンです。このボタンを押すたびに、**7**入力端子インジケータが切り替わります。



押してバランス入力端子(■) :「BALANCED」LED点灯  
再び押してアンバランス入力端子(●) :「UNBALANCED」LED点灯

### 5 GAIN — ゲイン切替スイッチ



増幅部のゲインを4段階に切り替えることができます。

#### MAX

通常使用するポジションで、ゲインは28dBになります。

#### -3dB、-6dB、-12dB

MAX時から、ゲインを下げると同時にノイズ成分も下がります。従って、マルチアンプ・システムなどで中・高域スピーカー駆動用として使用し、残留ノイズが気になる場合、またスピーカー・ユニットの能率が高く、他のスピーカー・ユニットとのレベルが合わせにくい場合に大変有効です。

### 6 パワーメーター

メータースケールは、出力レベルをdB(デシベル)と%で表示しています。8Ω負荷を基準(0dB:90W)にして4Ω負荷で2倍、16Ω負荷で1/2倍の値が出力になり、正弦波の場合には下記の様な出力値になります。

出力表示(dB/%)	1Ω負荷	2Ω負荷	4Ω負荷	8Ω負荷	16Ω負荷
0dB: 100%	—	360W	180W	90W	45W
-10dB: 10%	72W	36W	18W	9W	4.5W
-20dB: 1%	7.2W	3.6W	1.8W	900mW	450mW
-30dB: 0.1%	720mW	360mW	180mW	90mW	45mW
-40dB: 0.01%	72mW	36mW	18mW	9mW	4.5mW

このパワーメーターはピークレベル指示型になっていますので、きわめて短時間のうちに振幅や周期が変化している音楽や音声信号のピーク値を表示するように回路が構成されています。したがって、瞬時のピーク値を読みとりやすくするためにメーター指針の立ち上がり時間に比べて、立ち下がり時間が遅くなっています。また、プログラム・ソースにノイズがあったり、パルス性の信号が多く含まれている場合には、聴感上の音量感と多少違った感じになります。

※ブリッジ接続時のメーター指示値は9ページを参照してください。

### 7 UNBALANCED/BALANCED — 入力端子インジケータ

パネル面の**4**入力切替ボタンで切り替えたポジションをLEDで表示します。

## 8 BRIDGE — ブリッジ接続インジケータ (4ページ)

リアパネル側の**11**モード切替スイッチをBRIDGEに切り替えると、このLEDが点灯します。

## 9 INPUTS — 入力端子

プリアンプの出力を接続します。**4**入力切替ボタンで入力端子(BALANCEDまたはUNBALANCED)を選択してください。

### UNBALANCED

通常のアンプ入力端子です。

### BALANCED

バランス入力端子です。

ピンの極性は次のようになっていますので、プリアンプとの極性を合わせて正しく接続してください。



- ① : グラウンド
- ② : インバート(-)
- ③ : ノン・インバート(+)

\* バランス用オーディオケーブルは当社で別売しています。

## 10 SPEAKERS — スピーカー端子

A、B端子を装備し、2系統のスピーカーシステムを接続することができます。

- \* インピーダンス2~16Ωのスピーカーを使用してください。
- \* 2組のスピーカーを同時に鳴らす場合には、インピーダンス4~16Ωのスピーカーを使用してください。
- \* バイ・ワイヤリング接続の場合は、A/B端子それぞれから、スピーカーの低音用/中・高音用端子と接続します。
- \* 各端子は、ケーブルの端末処理がスムーズにできる「Yプラグ」や「バナナ・プラグ」の挿入が可能です。

## 11 モード切替スイッチ

P-4100の動作を、デュアル・モノ/ステレオ/ブリッジ接続に切り替えるためのスイッチです。詳しい説明は8ページ参照。

**DUAL MONO** : スピーカーをバイアンプ駆動する場合のポジションです。

**NORMAL** : ステレオ使用時でのポジションです。  
(工場出荷時ポジション)

**BRIDGE** : ブリッジ接続でのポジションです。  
(**8**ブリッジ接続インジケータ  
(4ページ)のLEDが点灯します。)

## 12 AC電源コネクタ

付属の電源コードを接続します。



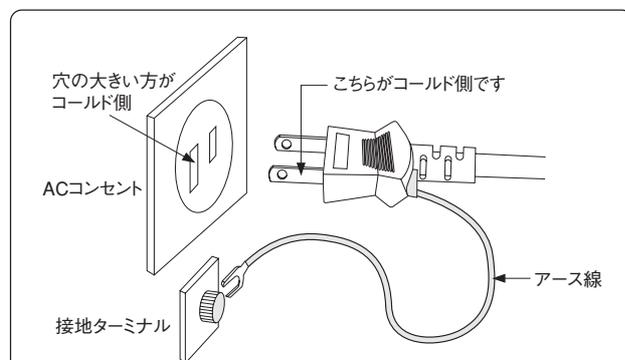
### 警告

電源は必ずAC100V家庭用コンセントを使用する。

### ■電源コードに付いているアース線の接続

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全になります。

接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。



### 警告

アース線の接地用ターミナルへの接続は、必ずプラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース線を外すときは必ずプラグをコンセントから抜いてから行ってください。

### ■電源コードの極性表示

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

### 注意

※室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。

※大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。

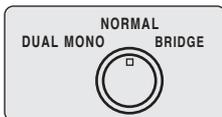
## 5. モード切替スイッチの活用

リアパネルの**11** モード切替スイッチにより、用途に応じてP-4100の動作(デュアル・モノ/ステレオ/ブリッジ)を切替えることができます。

**注意** :モード切替スイッチの切り替えや接続を変えるときは、必ず本機の電源スイッチを切る。

### NORMAL

接続方法は、5ページ参照。

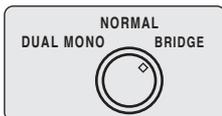


通常のステレオ演奏時でのポジションです。

※工場出荷時は、NORMALポジションです。

### BRIDGE

ブリッジ接続の詳細は9～11ページ参照。

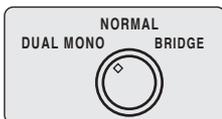


P-4100はモノフォニック・アンプとなりますので、ステレオ演奏に使用する場合には、P-4100が2台必要になります。

※**8**ブリッジ接続インジケータ(4ページ)のLEDが点灯します。

### DUAL MONO

バイアンプ方式の詳細は12ページ参照。

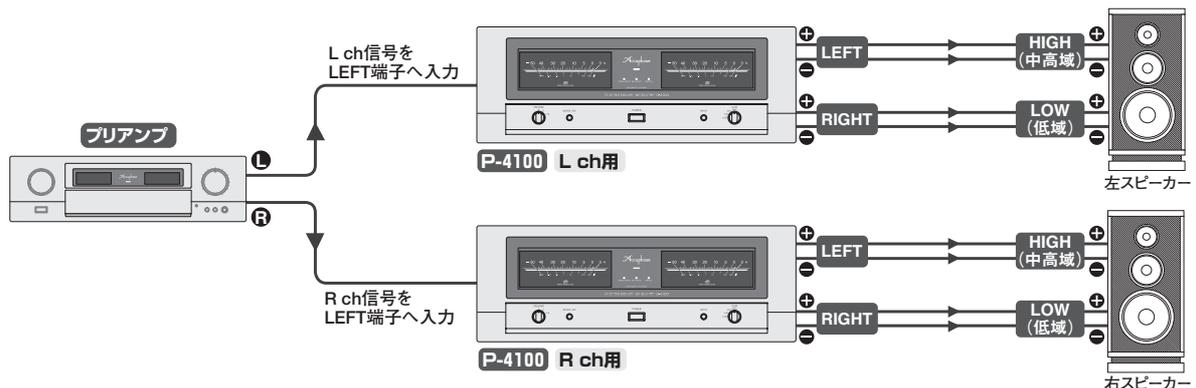


「DUAL MONO」ポジションではバイアンプ方式の演奏が可能です。

- バイアンプ方式は、LOW(低域)側、HIGH(中高域)側のスピーカー・ユニットを別々のアンプで駆動します。ネットワークを内蔵し、端子がLOW/HIGH分離可能な、バイアンプ対応のスピーカーが必要です。
- P-4100への入力信号は、2台ともLEFT端子へ入力します。(RIGHT端子は使用しません)
- P-4100のLEFT/RIGHT両スピーカー端子とも同一出力となります。

#### バイアンプ方式の接続例

(SPEAKERS端子は、AまたはB端子のどちらか一方を使用します)



## 6. ブリッジ接続



**注意** :ブリッジ接続にするときは、必ず各機器の電源スイッチを切る。

### ブリッジ接続とは

2チャンネルアンプの各入力に、互いに逆位相の信号を入力して、プッシュプル駆動することにより、更に**大出力(約4倍)のモノフォニック・アンプ**にすることができます。本機は、リアパネルの「モード切替スイッチ」をBRIDGE側にしますと内部でブリッジ接続に切り替わります。

- ブリッジ接続するとモノフォニック・アンプになります。
- ステレオで使用する場合には、P-4100が2台必要です。

### ブリッジ接続に切り替えた時

#### ■負荷インピーダンスは実際の負荷の半分になります。

ブリッジ接続にすると、1つのチャンネルに対する負荷インピーダンスは、実際の負荷の半分になります。4Ωのスピーカーを接続したときは、チャンネルあたり2Ωのスピーカーが接続されたときと同じになります。本機をブリッジ接続にするときは、4Ω以上のスピーカーをご使用ください。

#### ■増幅度は変わりません。

一般的にブリッジ接続にすると、増幅度が2倍になります。本機は、使いやすさを考慮して、ブリッジ接続にしても増幅度は変わらず、雑音は $1/\sqrt{2}$ になる設計になっています。

#### ■パワーメーターの表示。

ブリッジにすると2個のメーターが同一の指示をします。ただしこれは、正弦波のように対称波形入力の場合で、音楽や音声信号のようにパルス性の波形や非対称波形が入力された場合には、メーターの指針は同一の値を示しません。

- スピーカーへの出力は、ノーマル時に対して6dB(パワー値は4倍)アップになります。
- 8Ωに対して4Ωでは2倍、16Ωの場合には1/2倍になります。

出力表示	2Ω負荷	4Ω負荷	8Ω負荷	16Ω負荷
0dB	—	720W	360W	180W
-10dB	144W	72W	36W	18W
-20dB	14.4W	7.2W	3.6W	1.8W
-30dB	1.44W	720mW	360mW	180mW
-40dB	144mW	72mW	36mW	18mW

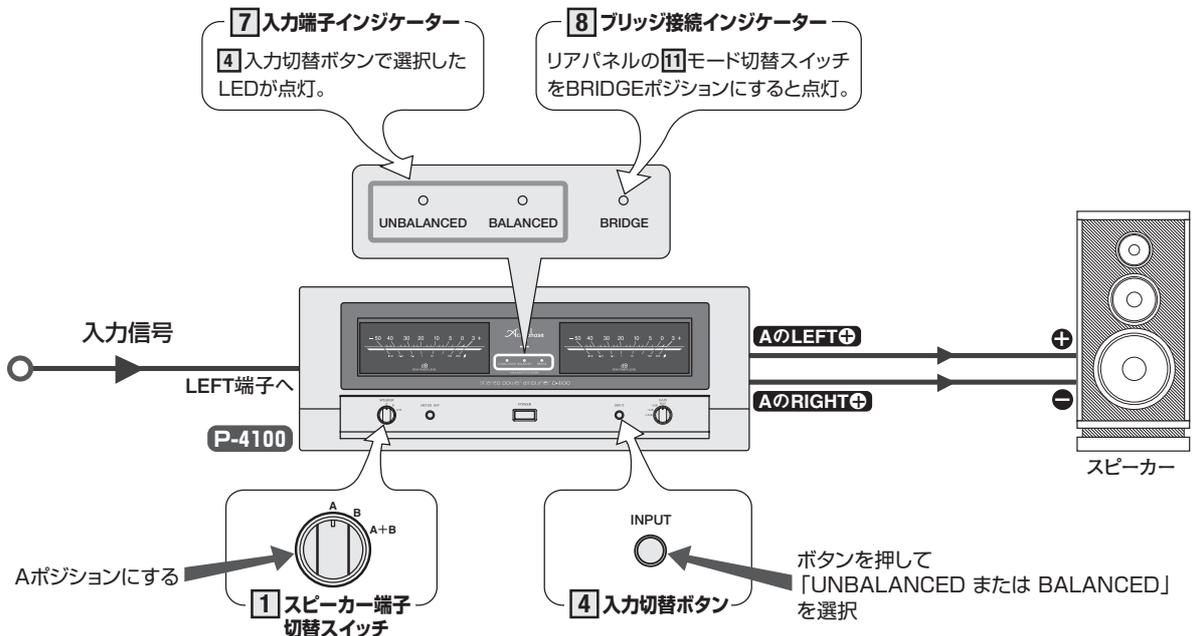
## ブリッジ接続にするには

SPEAKERS端子は、AまたはB端子どちらか一方を使用します。  
ここでは、A端子を使用した接続例で説明します。

- 1 P-4100の電源スイッチを切ります。
- 2 リアパネル側の **11**「モード切替スイッチ」をBRIDGEに切り替えます。
- 3 入力信号は、INPUTS端子 (UNBALANCEDまたはBALANCED) のLEFT端子に入力します。(RIGHT端子は使用しません)
- 4 「P-4100のSPEAKERS端子：A」 LEFT ⊕ ⇔ スピーカーの⊕端子  
「P-4100のSPEAKERS端子：A」 RIGHT ⊕ ⇔ スピーカーの⊖端子  
を接続します。  
※ **1** スピーカー端子切替スイッチをAポジションにします。  
※ 「SPEAKERS端子：A」の⊖側には何も接続しません。
- 5 P-4100の電源を入れ、パネル面の **4**「入力切替ボタン」で入力した端子 (UNBALANCEDまたはBALANCED) を選択します。  
※ **7** 入力端子インジケータの点灯で入力端子を確認します。  
※ **8** ブリッジ接続インジケータの点灯を確認します。

## パネル面の操作とインジケータ

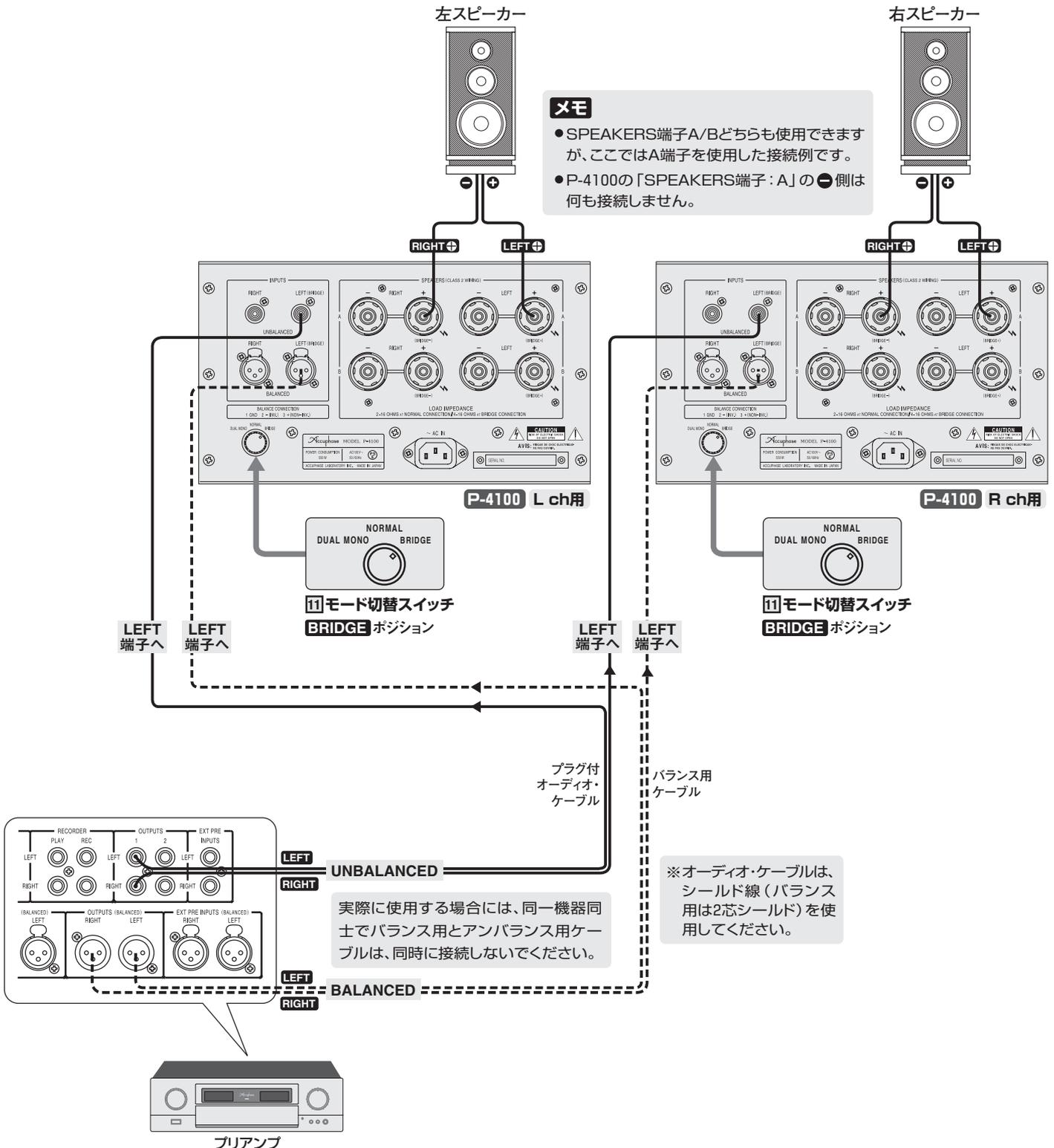
ブリッジ接続にすると、P-4100はモノフォニック・アンプになります。  
片チャンネルの接続を下図に示します。もう一台の接続も同様となります。



# ブリッジ接続図

**注意**：接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

- 注意**：
- ステレオで使用する場合は、P-4100が2台必要になります。
  - P-4100への入力信号は、2台ともLEFT端子へ入力します。(RIGHT端子は使用しません)
  - 同一機器同士でバランス用とアンバランス用の両ケーブルを同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。



# 7. バイアンプ方式

**⚠️ 注意**：接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

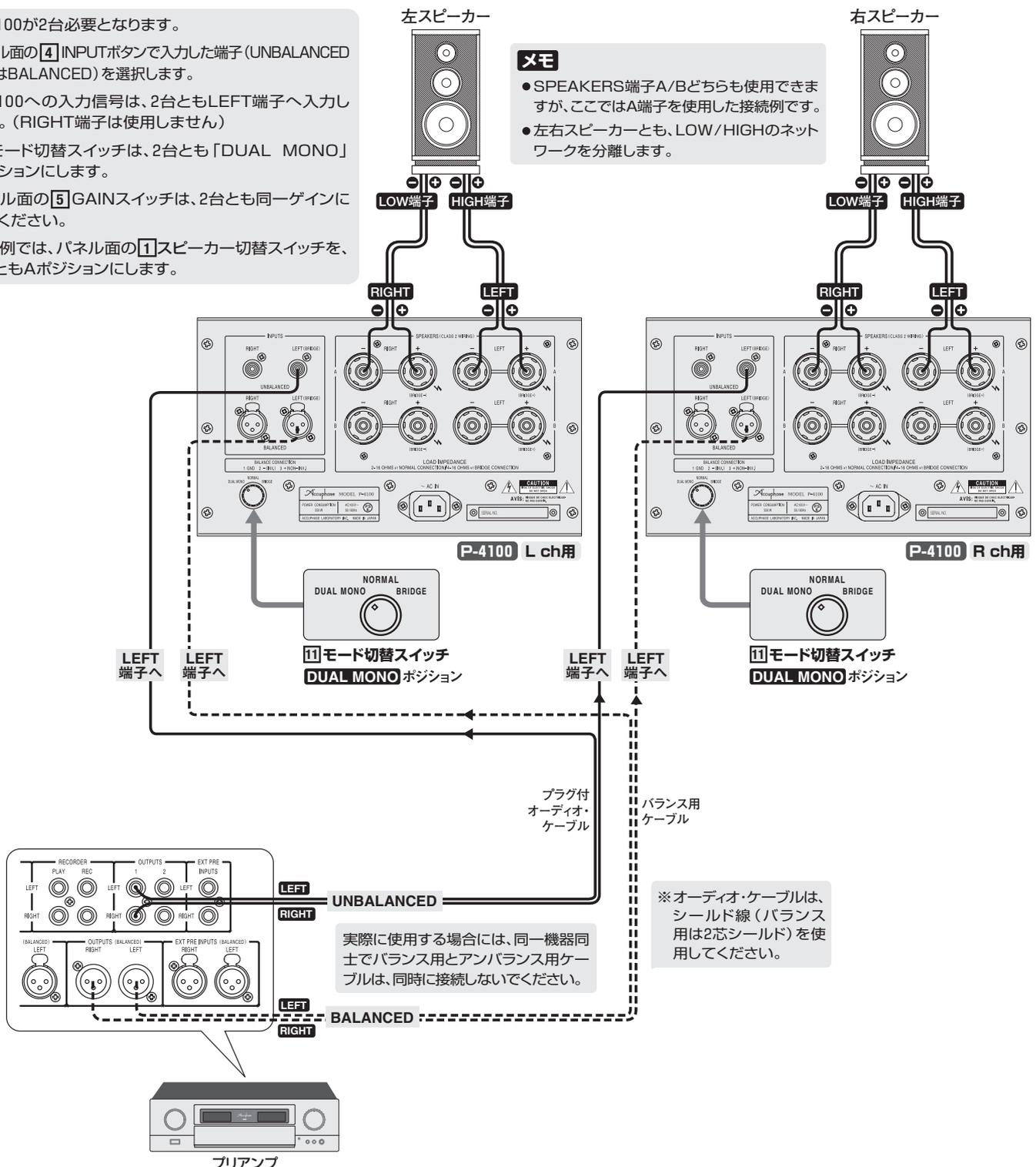
バイアンプ方式は、LOW(低域)側とHIGH(中高域)側のスピーカーを、別々のアンプで駆動し、高音質の演奏を楽しむことができます。ネットワークを内蔵し、端子がLOW/HIGH分離可能なバイアンプ対応スピーカーが必要です。

**注意**：●バランス用とアンバランス用ケーブルは、同一システム内で混用しないで、どちらか一方のケーブルを使用してください。同一機器へ同時に接続して使用すると、アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

- P-4100が2台必要となります。
- パネル面の**4** INPUTボタンで入力した端子 (UNBALANCED またはBALANCED) を選択します。
- P-4100への入力信号は、2台ともLEFT端子へ入れます。(RIGHT端子は使用しません)
- **11** モード切替スイッチは、2台とも「DUAL MONO」ポジションにします。
- パネル面の**5** GAINスイッチは、2台とも同一ゲインにしてください。
- 接続例では、パネル面の**1** スピーカー切替スイッチを、2台ともAポジションにします。

**メモ**

- SPEAKERS端子A/Bどちらも使用できますが、ここではA端子を使用した接続例です。
- 左右スピーカーとも、LOW/HIGHのネットワークを分離します。



※オーディオケーブルは、シールド線(バランス用)は2芯シールドを使用してください。

実際に使用する場合には、同一機器同士でバランス用とアンバランス用ケーブルは、同時に接続しないでください。

## 8. 保証特性

[保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる]

### 定格連続平均出力(20~20,000Hz間)

ステレオ仕様時(両チャンネル同時動作)	
500W/ch	1Ω負荷(※1)
360W/ch	2Ω負荷
180W/ch	4Ω負荷
90W/ch	8Ω負荷

モノフォニック仕様時(ブリッジ接続)	
1000W	2Ω負荷(※1)
720W	4Ω負荷
360W	8Ω負荷

注意:(※1) 印の負荷は、音楽信号に限る。

### 全高調波ひずみ率

ステレオ仕様時(両チャンネル同時動作)	
0.05%	2Ω負荷
0.02%	4~16Ω負荷
モノフォニック仕様時(ブリッジ接続)	
0.02%	4~16Ω負荷

### IMひずみ率

0.01%

### 周波数特性

定格連続平均出力時: 20~20,000Hz	+0	-0.2dB
1W出力時: 0.5~160,000Hz	+0	-3.0dB

### ゲイン(利得)

28.0dB(GAINスイッチ:MAX時)  
(ステレオ / モノフォニック仕様時共)

### ゲイン切替

MAX、-3dB、-6dB、-12dB

### 負荷インピーダンス

ステレオ仕様時	2~16Ω
モノフォニック仕様時	4~16Ω

※音楽信号に限り、ステレオ1Ωとモノフォニック2Ω負荷可能。

### ダンピング・ファクター

180

### 入力感度(8Ω負荷、GAINスイッチ:MAX時)

ステレオ仕様時	1.07V	定格連続平均出力時
	0.11V	1W出力時
モノフォニック仕様時	2.14V	定格連続平均出力時
	0.11V	1W出力時

### 入力インピーダンス

バランス	40kΩ
アンバランス	20kΩ

### S/N(A補正、入力ショート)

120dB	GAINスイッチ	MAX
125dB	GAINスイッチ	-12dB
定格連続平均出力時		

### 出力メーター

-50dB~+3dB(dB/%表示)  
対数圧縮型、表示消灯機能付

### 電源

AC100V 50/60Hz

### 消費電力

60W	無入力時
550W	電気用品安全法(※2)
380W	8Ω負荷定格出力時

### 注意:(※2)

電気用品安全法の消費電力は、その機種の最大負荷(P-4100は2Ω)で「クリッピング直前出力の1/8」を供給したときの電力値です。

### 最大外形寸法

幅465mm × 高さ190mm × 奥行427mm

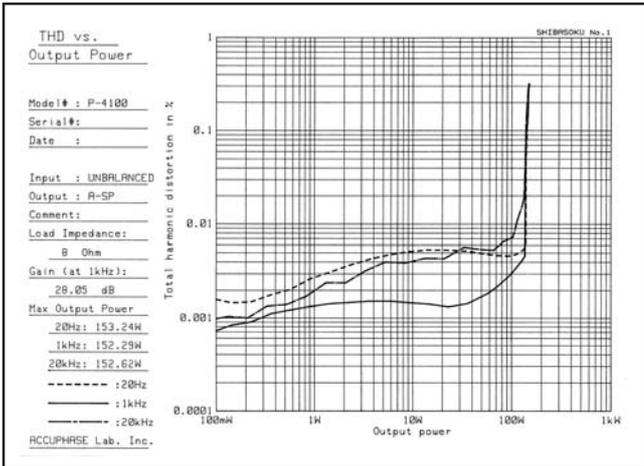
### 質量

28.2kg

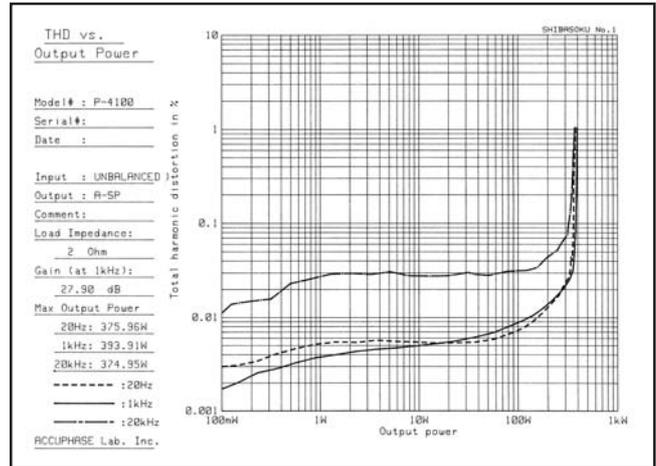
### ●本機は「JIS C-61000-3-2 適合品」です。

JIS C-61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性-第3-2部:限度値-高調波電流発生限度値(1相あたりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

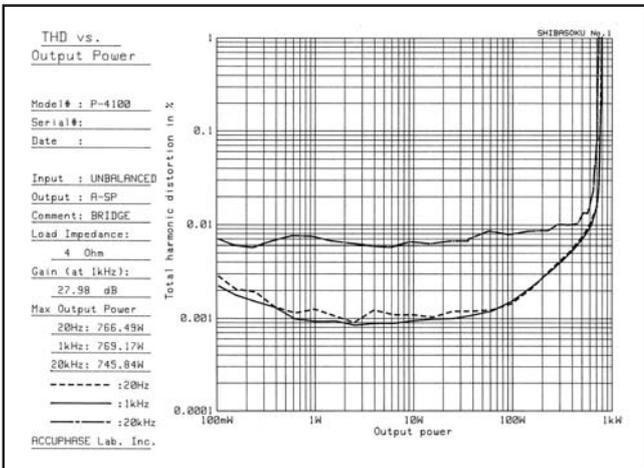
# 9. 特性グラフ



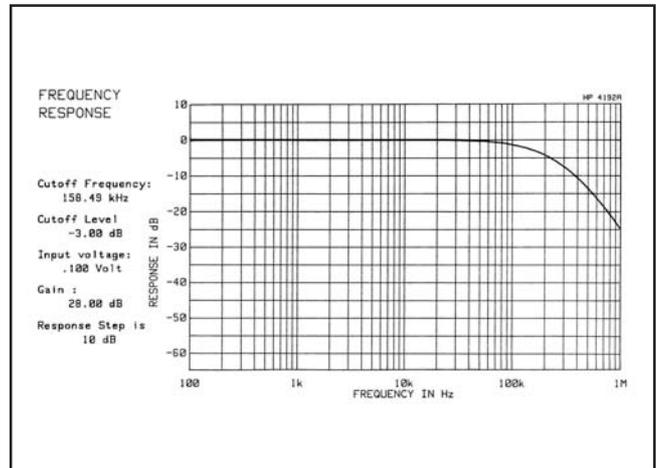
出力電力／全高調波ひずみ率特性  
(8Ω負荷、ステレオ仕様時)



出力電力／全高調波ひずみ率特性  
(2Ω負荷、ステレオ仕様時)

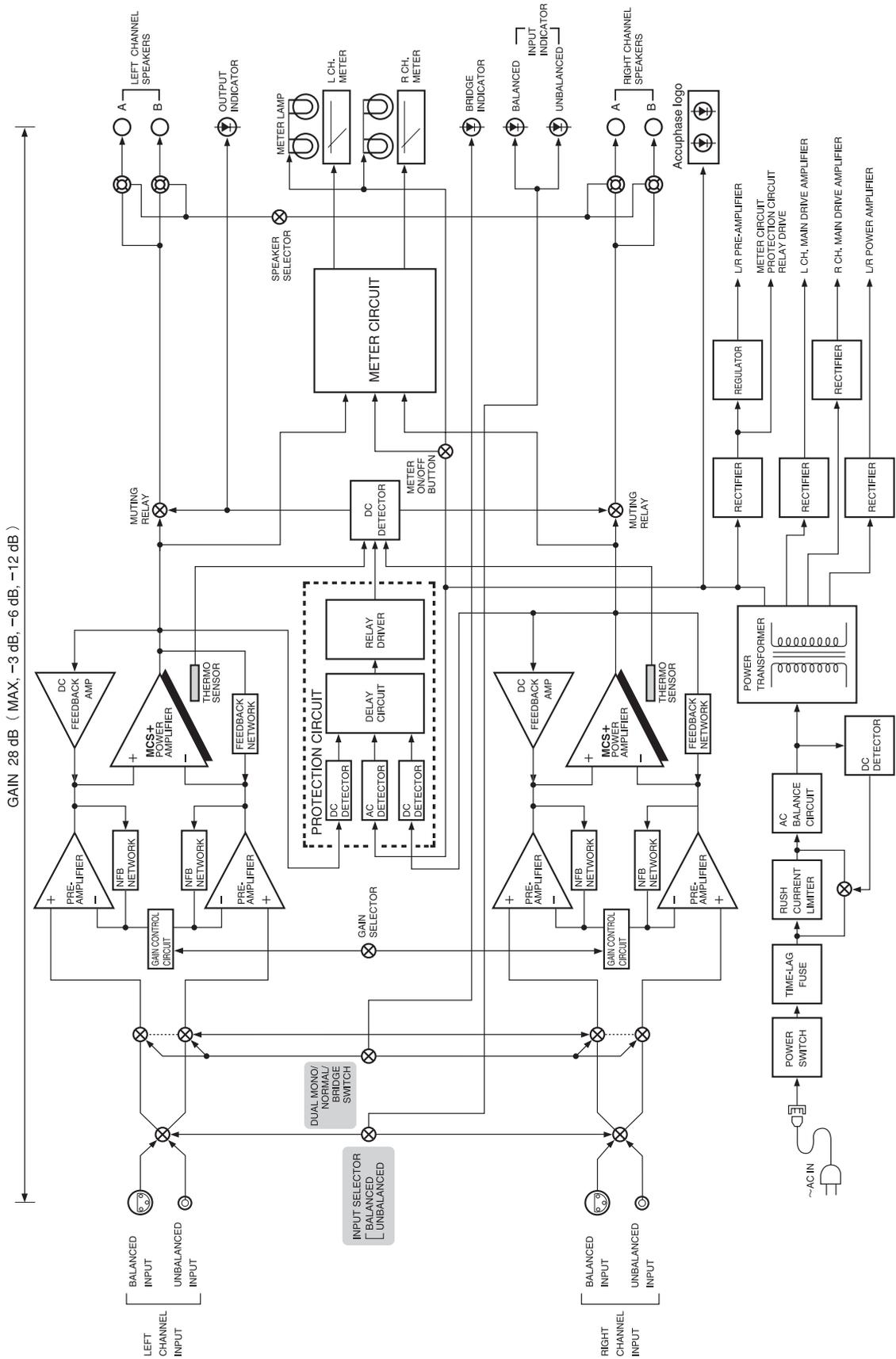


出力電力／全高調波ひずみ率特性  
(4Ω負荷、モノフォニック仕様時)



周波数特性  
(8Ω負荷、ステレオ1W出力時)

# 10. ブロック・ダイアグラム



## 11. 故障かな？と思われるときは

故障かな？と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。  
これらの処置をしても直らない場合には、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。



**注意**：接続を変える場合には、必ず各機器の電源を切る。

### 電源が入らない

- 電源コードが抜けていませんか。

### 音がでない

- プリアンプなどのソース側の電源は入っていますか。
- プリアンプやスピーカーなどと正しく接続されていますか。
- 入力切替ボタンで入力端子を確認します。

### 片側のスピーカーから音が出ない

- 接続コード、スピーカー・コードは正しく接続されていますか。
- プリアンプなどソース側のスイッチ類は正しい位置ですか。  
(とくにバランス・コントロールの位置)
- スピーカー・コードを左右入れ替えます。
  - ┌ 同じスピーカーから音がでない …… コードとスピーカーのチェック
  - └ 左右逆の状態になる …………… 本機やプリアンプ側に原因が考えられます。
- 次に入力接続コードを左右入れ替えます。
  - ┌ 同じスピーカーから音がでない …… 本機に原因が考えられます。
  - └ 左右逆の状態になる …………… コードやプリアンプ側に原因が考えられます。

### 出力がなくなる

- 本機は、内部の温度が異常に高くなると、特定のプロテクション回路が作動し出力を遮断します。  
3ページの「使用上の注意」を参照してください。

### 定位感がはっきりしない

- 本機とスピーカー端子の極性 ⊕ ⊖ は正しく接続されていますか。
- ステレオ再生の場合：リアパネルの **11**「モード切替スイッチ」は、“NORMAL” になっていますか。

## 12. アフターサービスについて

### 保証書

- 保証書は本体付属の「お客様カード」の登録でお送りいたします。
- 「お客様カード」の「お客様情報欄」には付属の「目隠しシール」を貼ってご返送ください。
- 保証書の記載内容により、保証期間はご購入日から3年間です。
- 「お客様カード」の登録をされていない場合、購入日は当社からの出荷日が適用されます。
- 保証書登録は付属の「お客様カード」で行われますが、購入が不適切な場合は登録できないことがあります。
- 保証書がない場合には、保証内修理をお断りする場合があります。よくお読みのうえ、大切に保存してください。
- オプション・ボードやオプション・ユニットには「お客様カード」は付属していません。

### 保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後最低8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。



### 注意

保証期間以降、長期に渡ってご使用の場合には、当社の定期的な点検をお勧めします。

### その他

- 改造されたものは修理ができない場合がありますのでご了承ください。
- 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
- AC100V以外(海外)では使用できません。
- 保証は日本国内のみ適用されます。  
Accuphase warranty is valid only in Japan.

### お問い合わせは

- ご質問、ご相談、当社製品取扱店のご案内などは、下記の当社品質保証部へお願いします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部  
〒225-8508 横浜市青葉区新石川 2-14-10  
TEL 045(901)2771(代表)  
FAX045(901)8995

- 修理のご相談は、お買い求めの当社製品取扱店へお願いします。
- 当社のホームページ上でも修理の問い合わせが可能です。  
<http://www.accuphase.co.jp/>

### 修理依頼の場合には

- “故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、当社製品取扱店に修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号
- ご住所、氏名、電話番号
- ご購入日、ご購入店
- 故障状況:できるだけ詳しく

※梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。



ACCUPHASE LABORATORY, INC.

**アキュフェーズ株式会社**

横浜市青葉区新石川2-14-10

〒225-8508 TEL(045)901-2771(代)

<http://www.accuphase.co.jp/>